KIORITZ

# 取 扱 説 明 書

## 共立高圧洗浄機
## WE1009
## WE1512

**⚠ 警 告**

**ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。**
**取扱説明書の指示内容を守ってください。**
**守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。**

## ⚠ 注　意

- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

# はじめに

共立高圧洗浄機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この機械を洗浄以外の目的で使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。(　)内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

### ⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

### ⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

### ⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

### ⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

### 重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

# 目 次


はじめに ..... 2
警告表示ラベルについて ..... 3
各部の名称 ..... 4
正しい作業のために ..... 6
組　立 ..... 11
運転前の準備 ..... 12
運　転 ..... 13
洗浄作業の開始・停止 ..... 15
輸送・移動時の注意 ..... 17
点検・整備 ..... 17
長期保管 ..... 18
故障対策 ..... 19
仕　様 ..... 20

# 警告表示ラベルについて

- この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図の位置に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



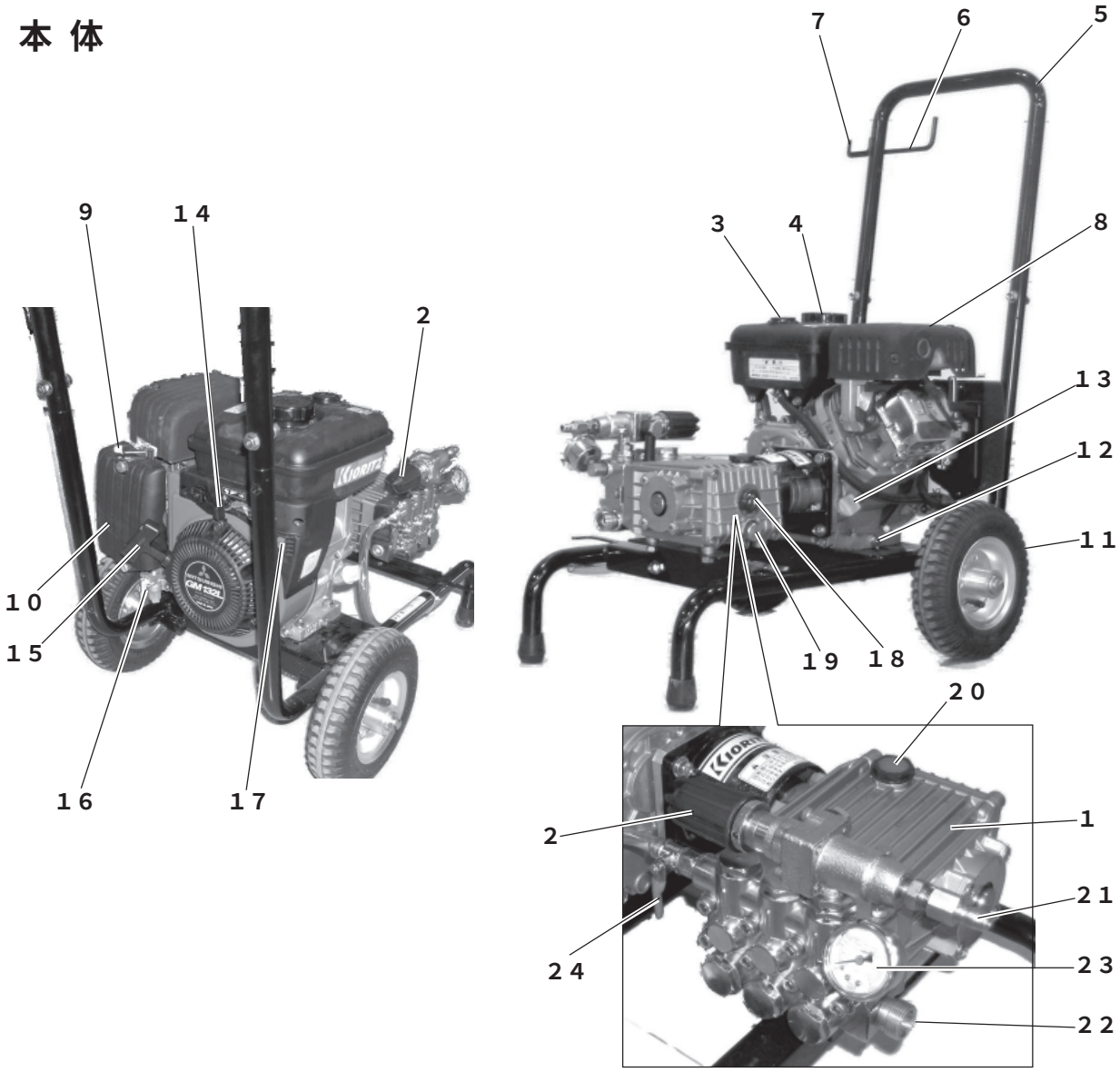

部品番号：X505-001860

部品番号：890016-00700

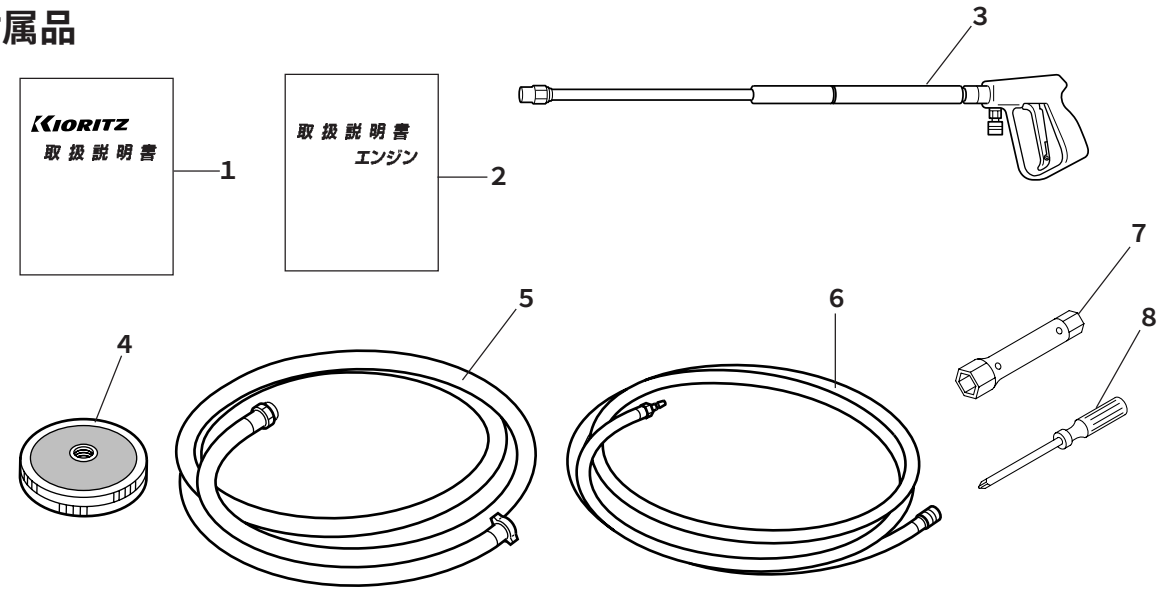
部品番号：890016-01000

# 各部の名称

## 本 体


7
6
5
9
14
3
4
8
2
13
12
11
10
15
19
18
16
17
20
2
1
21
24
23
22

## 付属品


KIORITZ
取扱説明書
1
取扱説明書
エンジン
2
3
7
8
4
5
6

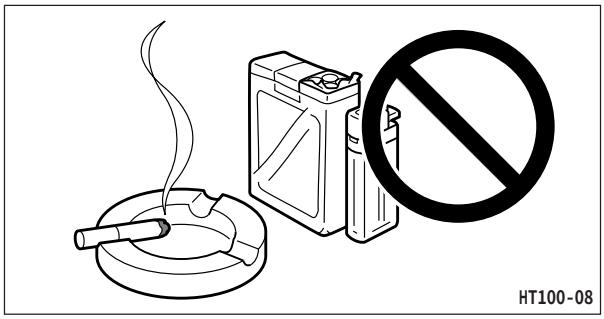
## 各部の名称（本体）

１．ポンプ —— 水を吸込み、加圧し送り出します。
２．圧力調整ネジ —— ポンプの吐出圧力を調節するものです。
３．燃料レベルゲージ —— 燃料の残量がわかります。
４．燃料タンクキャップ —— 燃料タンクを密閉するふたです。
５．ハンドル —— 移動時に使用します。
６．ホース巻き —— 機械を移動するとき、または保管するときに吐出ホースを巻いてください。
７．トリガランス受け —— トリガランスを掛けておくところです。
８．マフラカバー —— 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
９．チョークレバー —— 冬期およびエンジンが始動しにくいとき使用します。
１０．エアクリーナカバー —— エアフィルタを防護するカバーです。
１１．ホイールタイヤ —— 移動時に使用します。
１２．エンジンオイルドレン —— エンジンオイルを抜く所です。
１３．エンジンオイル給油口キャップ —— エンジンオイルの給油口のふたです。エンジンオイルの補給はこのキャップを外してここから給油します。キャップの裏にオイルレベルゲージが付いています。
１４．スロットルレバー —— エンジンの回転数を調節するレバーです。
１５．スタータグリップ —— エンジンを始動するときに使用します。
１６．燃料コック —— エンジンを使用するとき開き、終了時は閉じておきます。
１７．ストップスイッチ（エンジンスイッチ） —— エンジンを停止するスイッチです。
１８．オイルゲージ（ポンプ） —— ポンプのクランクケース内のオイル量を見るところです。
１９．ドレン（ポンプ） —— ポンプのクランクケース内のオイルを抜くところです。
２０．ポンプオイル給油口キャップ —— ポンプのクランクケース内にオイルを入れるための給油口のふたです。このキャップを外してオイルを給油します。
２１．吐出口 —— 加圧された水を吐出する口です。付属の吐出ホースは、ここに接続します。
２２．吸水口 —— 吸水ホースを接続します。
２３．圧力計 —— ポンプの圧力を表示します。
２４．エア抜きコック —— 始動時に、水をポンプに吸込ませるときに開きます。

## 各部の名称（付属品）

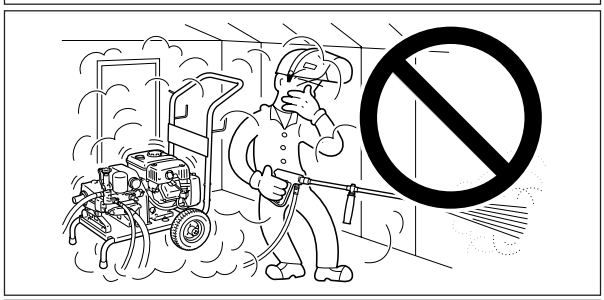
１．取扱説明書（本機） —— 本機をお求めになったとき必ず付属しています。
本機を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に必ず保管してください。
２．取扱説明書（エンジン） —— 本機に搭載しているエンジンの取扱説明書です。
エンジンの安全な取扱やメンテナンスについて記載されています。
本機の取扱説明書と共に、すぐ取出せる場所に保管してください。
３．トリガランス —— 先端から高圧水を噴射します。
４．吸水ストレーナ —— ポンプが吸水する際に異物を取除きます。梱包時には吸水ホースに組付いていませんので、この取扱説明書を参照して吸水ホースに組付けてください。
５．吸水ホース —— 水を吸込むホースです。先端に吸水ストレーナを取付けます。
６．吐出ホース —— 加圧された水を吐出するホースです。
７．ボックスレンチ —— エンジンのプラグをセットするときなどに使用します。
８．プラスドライバ —— 修理のときなどに使用します。

# 正しい作業のために



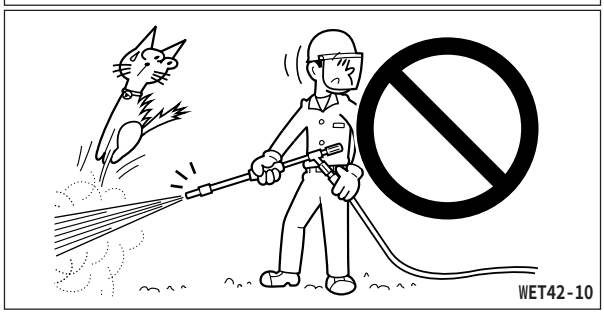

**⚠ 危　険**

**燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。**



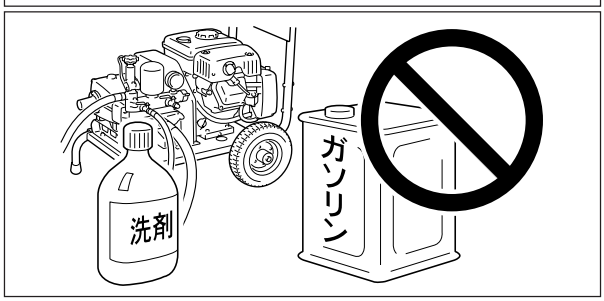
**⚠ 警　告**

- **エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。**
- **夜間や視界が悪く暗い場所では、本機を絶対に操作しないでください。**



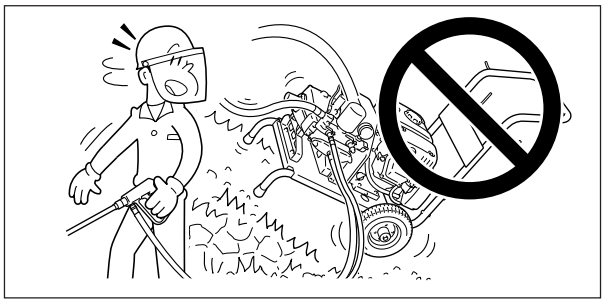

**⚠ 警　告**

**人、動物、電気製品、および本機には噴射しないでください。**




**重　要**

**ポンプには、水以外のもの（汚水、湯、洗剤、ガソリンなど）を吸込ませないでください。**



**⚠ 注　意**

**機械を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。**




## からだの状態

- **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。**

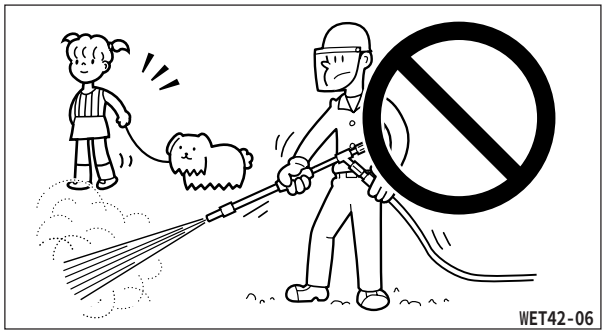
**⚠ 警　告**

**適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起きることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。**

## 服装について

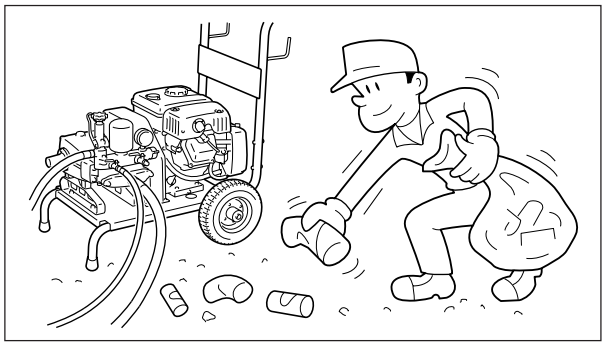
- **必ずフェースシールドを付けてください。**
- **滑りにくい作業靴を履いてください。**
  **つま先のあいた靴、サンダル、はだしで作業を行なわないでください。**
- **タオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。**

## 作業前の点検



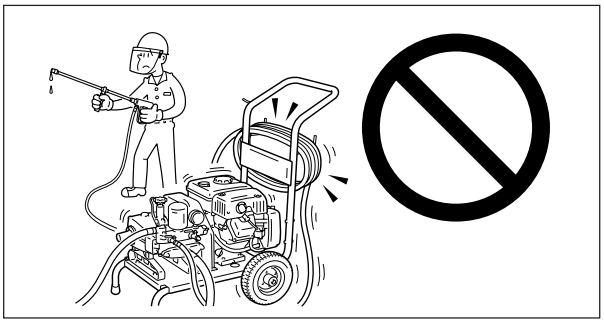

**⚠ 注　意**

**子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。**



- **作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。**

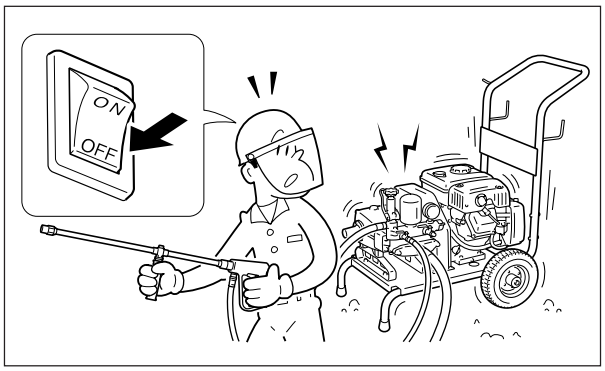
- **ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。**



**重　要**

**洗浄を行なう前に、吐出ホースをホース巻きから外してください。**

## 作業中の注意



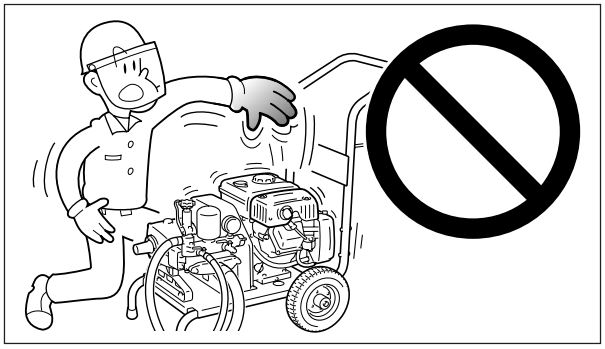

**重　要**

**１分間以上、カラ運転をしないでください。**
**ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。**

**⚠ 警　告**

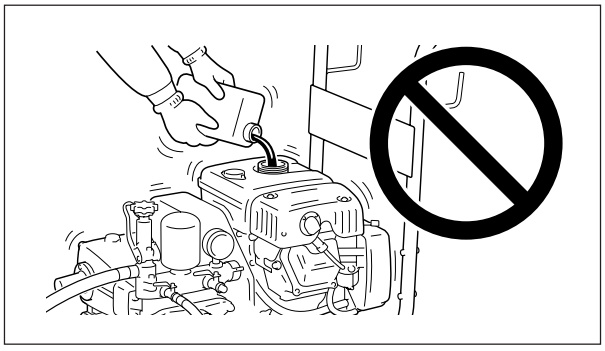
**危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。**

● **回転が不安定な場合や異常な音がした場合は、すぐに作業を中止してください。**



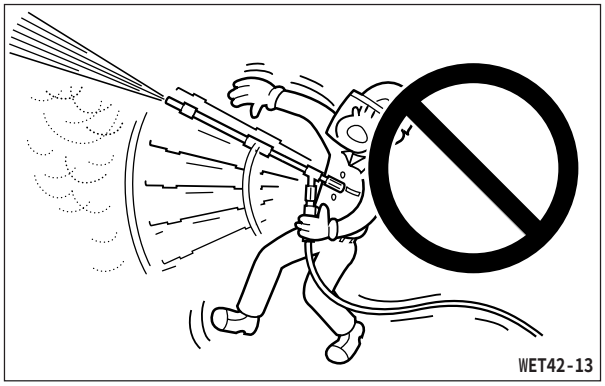
**⚠ 警　告**

**運転中､停止直後は本体の上部が熱くなっています。触らないようにしてください。**



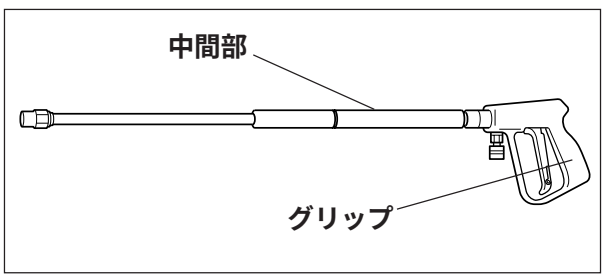
**⚠ 警　告**

**燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。**
**燃料をこぼした場合は､すぐに拭き取ってください。**

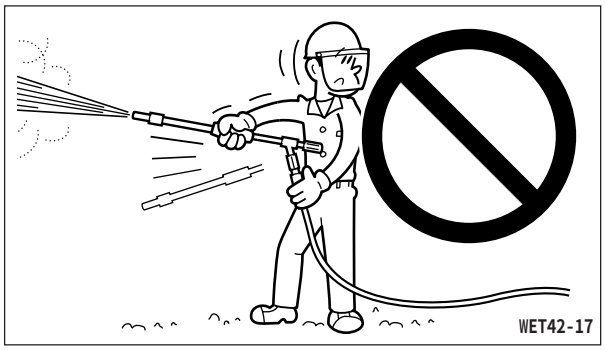



**⚠ 注　意**

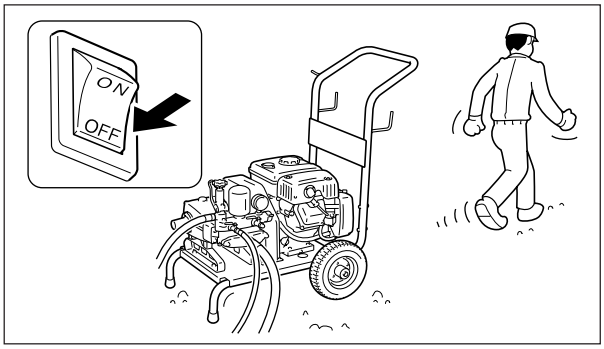
**トリガランスをしっかり保持してください｡反動がきたとき、思わぬ方向へ動くことがあります。**



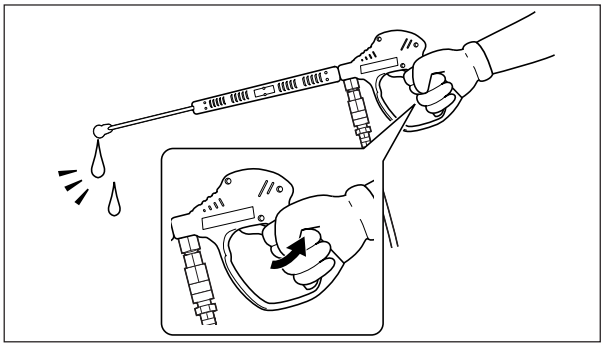

● **作業中はトリガランスのグリップと中間部を正しく保持してください。思わぬ方向へ水が噴射されることがあります。**




● 作業中は、トリガランスの先を見てください。
作業以外の場所を見るときは、作業を中断してください。

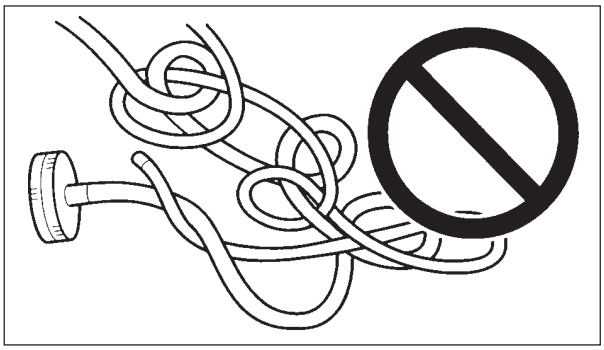



● 洗浄機から離れるときは、エンジンを停止してください。

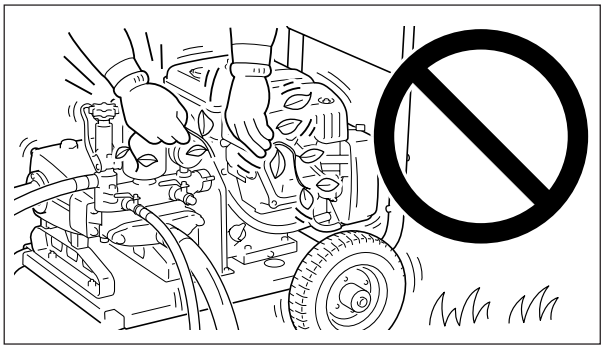


**重　要**

運転の中断や終了のときは、必ずトリガを握り吐出ホース内の残圧を抜いてください。
次に作業を開始するときに、反動を防ぐことができます。



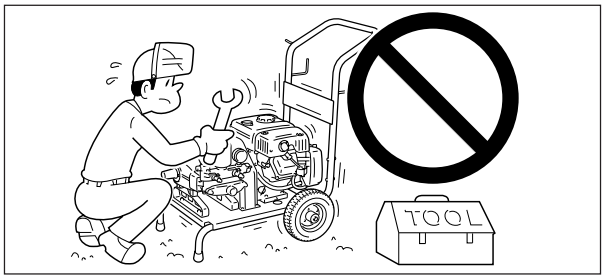
● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。



● 機械に絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。

**⚠ 警　告**

**修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。**



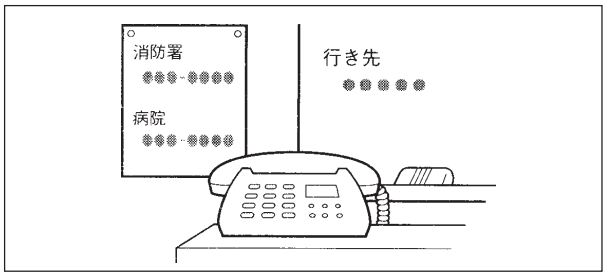

## 点検・整備の注意

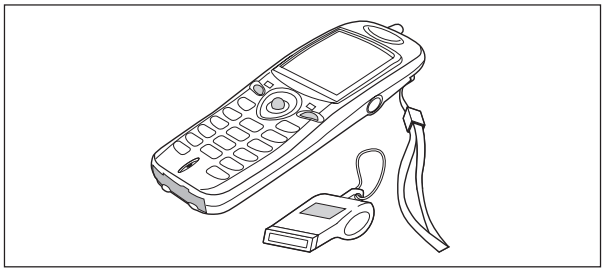
● **この取扱説明書およびエンジンの取扱説明書に従って点検・整備を行なってください。**

● **当社指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。**

● **保管する前に必ず水を抜いてください。冬期に凍結することがあります。**

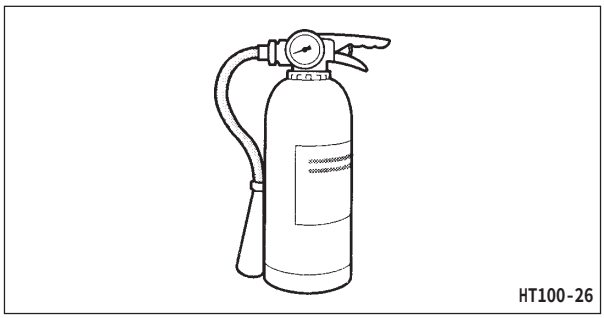
## 万一の事故に備えて



● **作業の前に**

- **万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。**
  **特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。**
- **単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。**
- **作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。**




● **発火に対する備え**

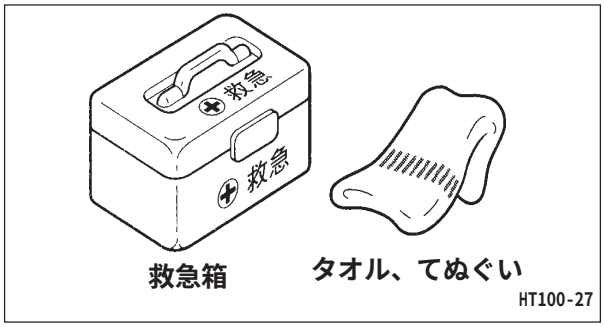
**⚠ 警　告**

**作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。**

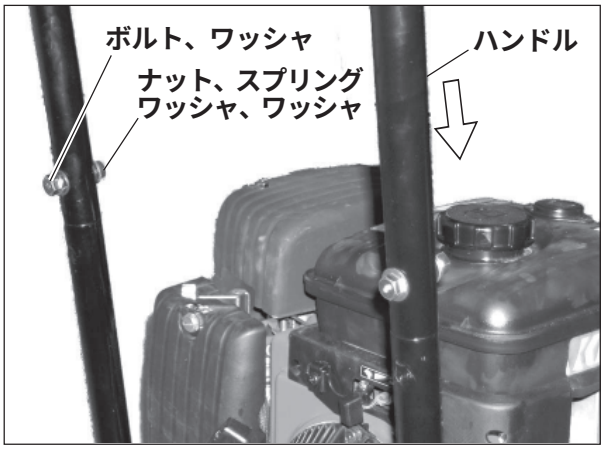
- **自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。**
  **草木などに類焼しないよう注意してください。シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**

●**ケガへの備え**

- **万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。**
  **出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。**



# 組　立

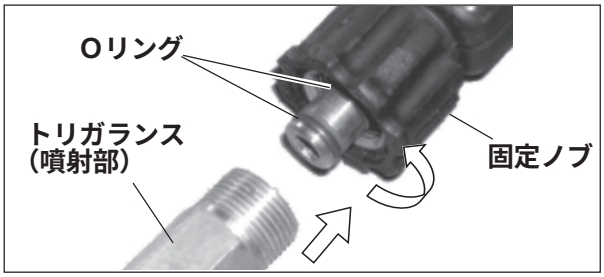



**⚠ 注　意**

- ●組立作業は、必ずエンジンを停止して行なってください。
- ●手順に従って正しく組立てください。
  特にネジ部の締付けは確実に行なってください。
  使用中にネジが外れて思わぬケガをすることがあります。

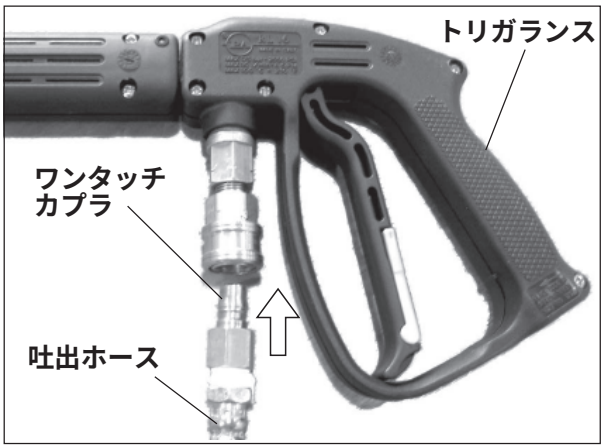
**● ハンドルの組立**

本体とハンドルは分解された状態で梱包されています。
左図のようにボルト、ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットでハンドルを本体に組付けてください。




**● トリガランスの組立**

Oリングの紛失および破損がないことを確認してから、トリガランスの噴射部をガン側に押込んで固定ノブを回して組立ててください。

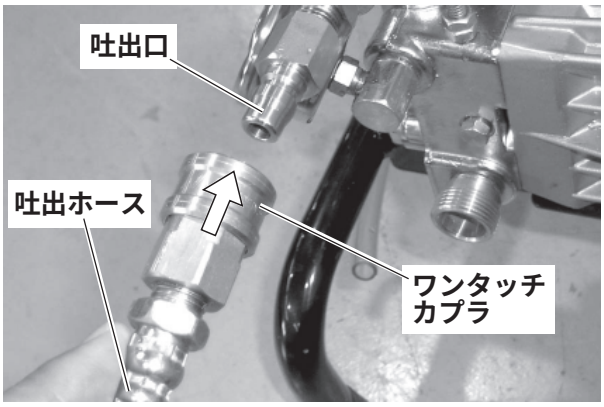



**⚠ 注　意**

ワンタッチカプラは確実に接続してください。
使用中に吐出ホースが外れると思わぬケガをすることがあります。

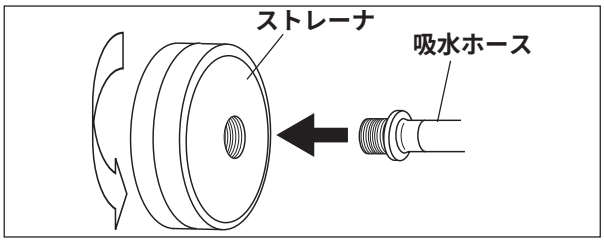
**● 吐出ホースとトリガランスの組付**

同梱されている吐出ホースをトリガランスに組付けます。
左図のようにトリガランスにワンタッチカプラを押し込み接続します。接続が不完全だと、ワンタッチカプラがロックしないため、吐出ホースが抜けてしまいます。ワンタッチカプラがロック状態になるまで、確実に押し込んでください。




**● 吐出ホースの接続**

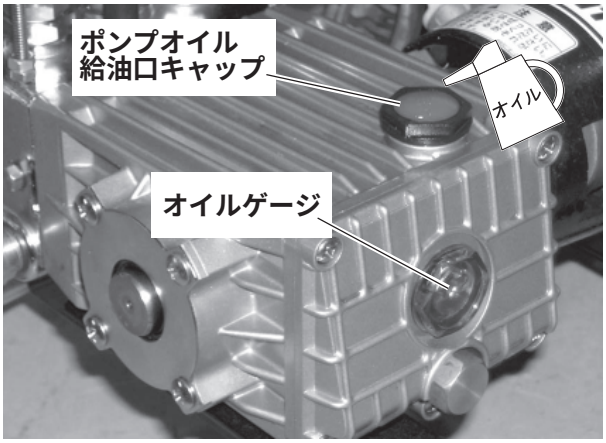
左図を参照して吐出ホースを本体に接続します。
吐出ホースを接続したら、吐出ホースをホース巻きに巻き付けトリガランスをトリガランス受けに掛けておきます。

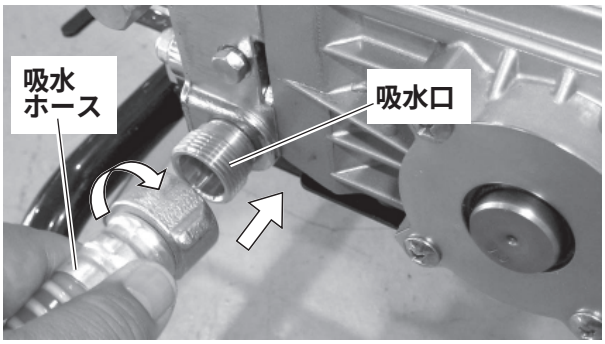



**● 吸水ホースとストレーナの組付**

左図を参照して吸水ホースにストレーナを組付けます。

# 運転前の準備




## ポンプの準備

● オイルの給油・補給

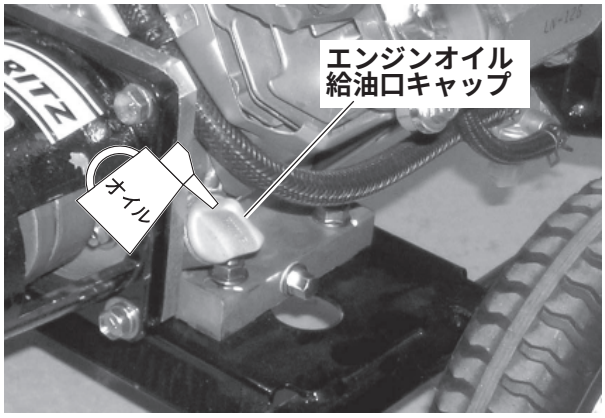
１．ポンプオイル給油口キャップを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルはＳＣ、ＳＤまたはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用してください。

**重　要**

マークより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

● 吸水ホースの接続

１．吸水ホースをポンプの吸水口に接続します。（左図参照）




## エンジンの準備

● オイルの給油・補給

１．初めて使用されるときは、オイルを入れてください。オイル量は、約０．６リットルです。
エンジンオイルはＳＥ級以上、ＳＡＥ＃３０を使用してください。

**重　要**

●規定量にオイルがあることを確認してください。
●少ない場合は新しいオイルを補給してください。
●汚れや変色が著しい場合は交換してください。
●詳細はエンジンの取扱説明書に従ってください。

２．給油・補給・交換後は、エンジンオイル給油口キャップを確実に締めてください。




● 燃料の給油・補給

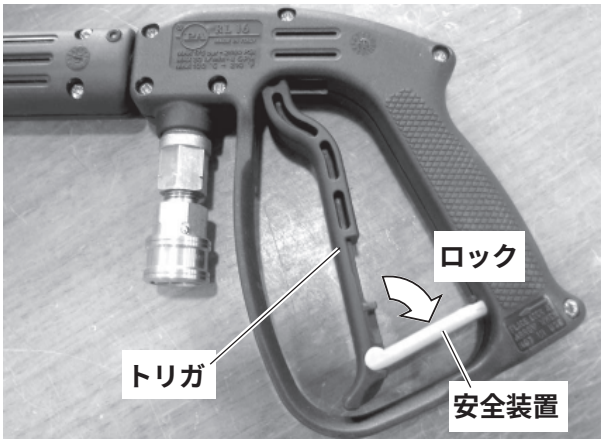
１．燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用し、燃料タンクキャップを開けたら必ず燃料コシ網を使用して給油・補給してください。

２．詳細はエンジンの取扱説明書に従ってください。

**⚠ 危　険**

●燃料給油中は、エンジンを停止してください。
●燃料給油中は、火気を近づけないでください。
●燃料があふれたりこぼれた場合は、すぐに拭き取ってください。
●燃料給油後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

# 運　転

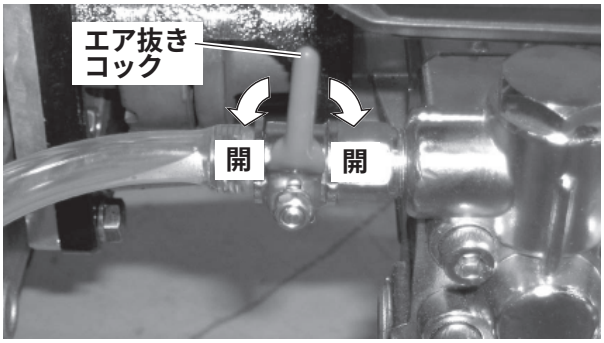



## エンジンを始動するまえに

1．トリガランスのトリガを安全装置でロックしてください。

**⚠ 警　告**

**トリガランスのトリガをロックしていないと、不意にノズルから噴射する恐れがあり、事故の原因となります。**



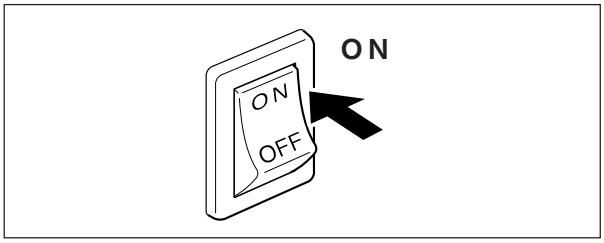

2．エア抜きコックを、全閉の位置から開いてください。

3．吸水ホースと吸水ストレーナを水の中に入れておきます。

**重　要**

**ポンプには、水以外のもの（汚水、湯、洗剤、ガソリンなど）を吸込ませないでください。**

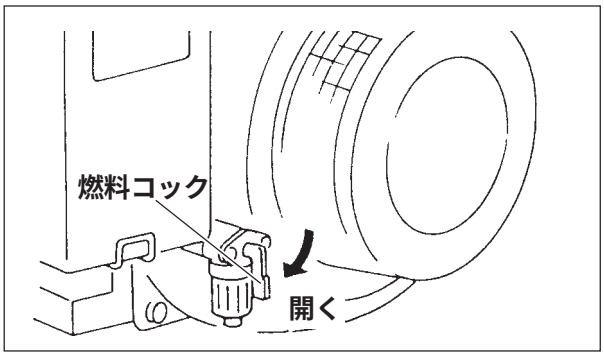
## エンジンの始動



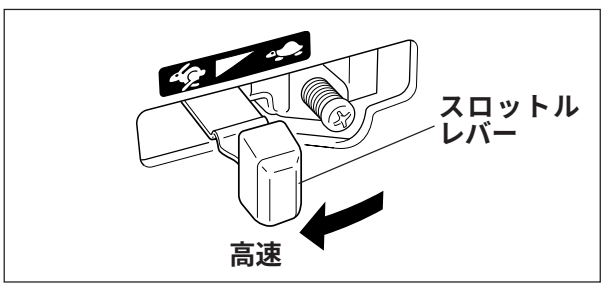

**⚠ 警　告**

**エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。**

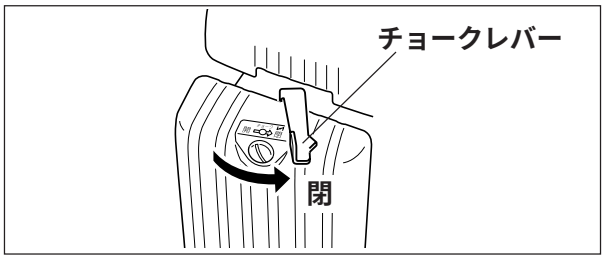
1．エンジンスイッチを「ON」にしてください。



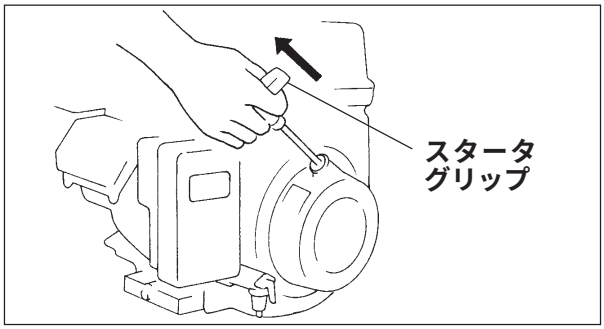

2．燃料コックを開けてください。



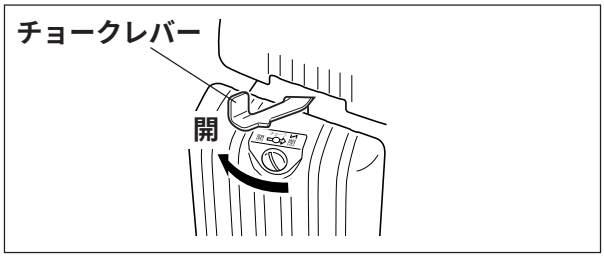

3．スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。




4．チョークレバーを「閉」にしてください。

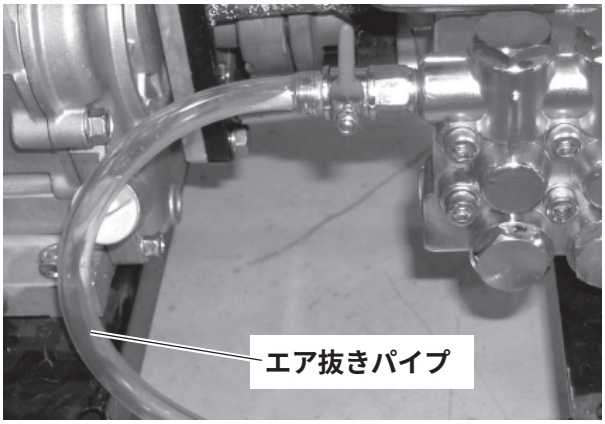



5．スタータグリップを握り、いきおいよく引いてください。



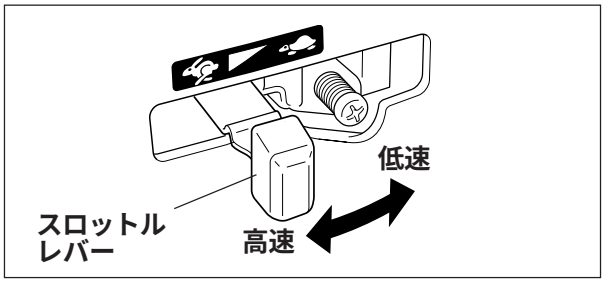

6．エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」にしてください。

## エンジンが始動したら




1．エンジンが始動すると、ポンプも始動し吸水を始めます。エア抜きパイプからいきおいよく水が出ているかを確認してください。

2．エア抜きパイプからいきおいよく水が出ていることを確認したら、エア抜きコックを閉じてください。




3．スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」側へ、下げるときには「低速」側へ動かします。
エンジン始動後は「低速」で２分間ほど暖機運転をしてください。

**重　要**

- 加圧運転中にエア抜きコックの開・閉操作をしないでください。高圧水が噴き出しホースがあばれます。また、コックが破損する原因となります。
- エア抜きコックを閉じたまま、トリガランスから噴射しない状態で５分間以上運転しないでください。故障の原因となります。

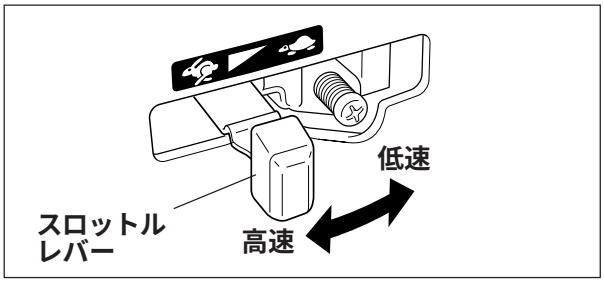
# 洗浄作業の開始・停止

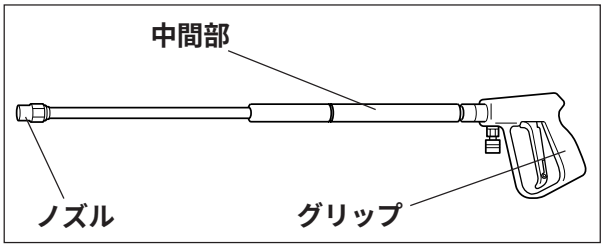
**⚠ 警　告**

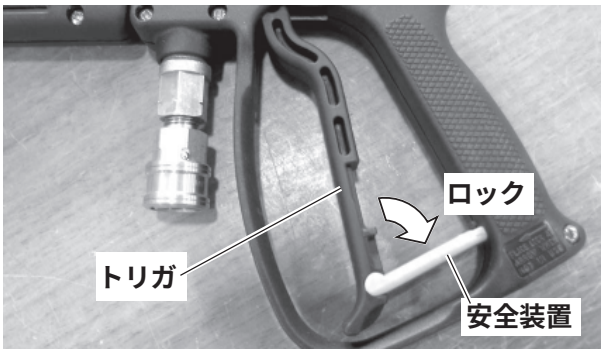
人、動物、電気製品、本機にトリガランスの先を向けないでください。

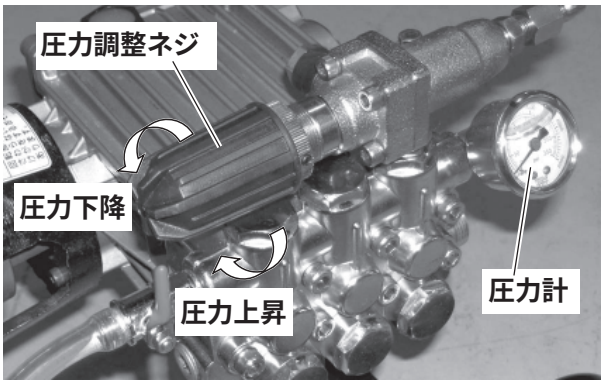
**⚠ 注　意**

最初の数秒間、ホース内の空気が抜けます。反動がきたとき、思わぬ方向へ動くことがありますので、トリガランスをしっかり保持してください。




**重　要**

- １分間以上、カラ運転をしないでください。ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。

**⚠ 注　意**

- ポンプやエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行なってください。

## 運転

１．エンジン始動の状態から、スロットルレバーを「高速」の位置にしてください。（詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください）

２．トリガランスのロックを解除してください。トリガランスのグリップと中間部を両手でしっかり握り、ノズル先を被射体に向けてトリガを握ると高圧水が噴射されます。

## トリガランス

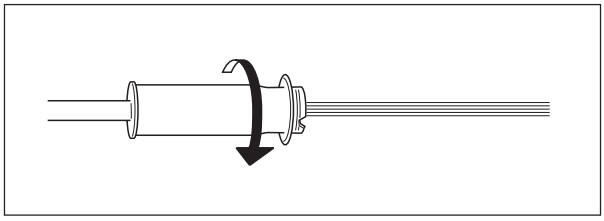
トリガランスのトリガを引くと水を噴射します。トリガランスには安全装置がついています。安全装置をロックの位置にすると、噴射できない状態でトリガをロックします。作業をしないときは、誤って噴射することがないように安全装置をロックの位置にしてください。

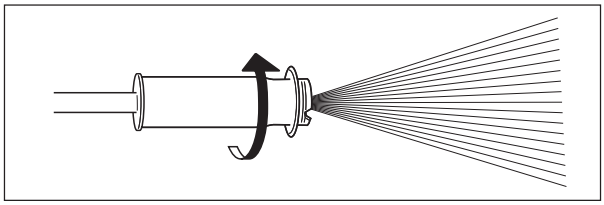
## 圧力の調整

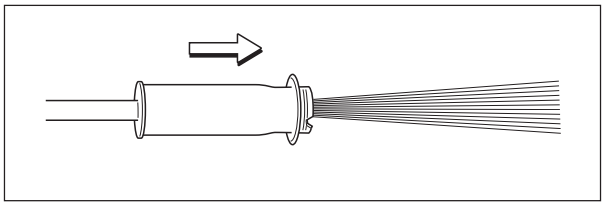
圧力調整ネジを回すことにより、噴射中の圧力を調整することができます。
圧力調整ネジを右に回すと噴射中の圧力は上昇し、左に回すと下降します。圧力調整は、圧力計で圧力を確認しながら行なってください。
圧力調整範囲：４～１５MPa（４０～１５０kgf/cm²）

**重　要**

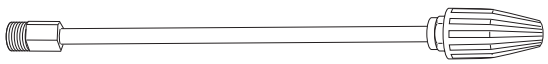
本機に付属のトリガランス先端の洗浄ノズルは、バリアブルノズルです。用途に応じて噴射の形状を使い分けてください。







旋回ノズル



**重　要**

- ●緊急にエンジンを停止するときは、エンジンスイッチを「ＯＦＦ」にしてください。
- ●緊急停止は機械に負担をかけ寿命を縮めますので、緊急時以外は行なわないでください。

**⚠ 注　意**

吐出ホースを外すときは、必ずトリガランスのトリガを握り、水を完全に抜き残圧を抜いてから外してください。

## バリアブルノズルの使い方

バリアブルノズルは、ノズルを前後に動かすことにより吐出圧力を高圧・低圧に切り替えることができます。またそれぞれの圧力でノズルを回転させることにより、噴射の形状を直射から扇形へと無段階に調整することができます。

- ● 先端を矢印の方向に回すと、直射になります。剥離や樹木の皮剥ぎなど、強い洗浄力を必要とするときに使います。
  被洗浄物にノズルを近づければ洗浄力が増すわけではありません。最も洗浄力が高くなるのは、２０～２５㎝の距離です。
- ● 先端を矢印の方向に回すと、扇形に噴射されます。建設機械や農業機械の洗車・洗浄のときに使います。また、床洗浄や機材の洗浄のときに使います。
- ● 先端を先に押出すと、低圧になります。手元に引くと、高圧に戻ります。低圧モードは、高圧洗浄で飛び散った汚れの仕上げ洗浄のときに使います。

## 旋回ノズル（別売品）

樹木の皮剥ぎや漁船のフジツボ落としなど、付属のノズルよりも更に強力な洗浄力を必要とする場合は、旋回ノズル（別売品）を使用すると洗浄作業の効率が上がります。
旋回ノズルのご購入は、本機をお買い求めの販売店にご用命ください。

## 洗浄作業が終わったら

1. １．作業が終了したら、トリガランスのトリガを放して噴射を停止し、安全装置をロックします。
2. ２．エンジンのスロットルレバーを「低速」の位置にして、２分間ほど冷却運転してください。
3. ３．エア抜きコックを開き、吸水ホースおよび吸水ストレーナを水から引上げます。
4. ４．トリガランスの安全装置を解除し、トリガを握り吐出ホース内の水と圧力を抜いてから、再び安全装置をロックしてください。
5. ５．エンジンスイッチを「ＯＦＦ」にして、エンジンを停止します。
6. ６．燃料コックを閉じてください。
7. ７．凍結による破損を防ぐため、エア抜きコックは開けておいてください。

# 輸送・移動時の注意

機械を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

- 必ずエンジンを停止する。
- 機械使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 機械に衝撃をあたえないようにする。

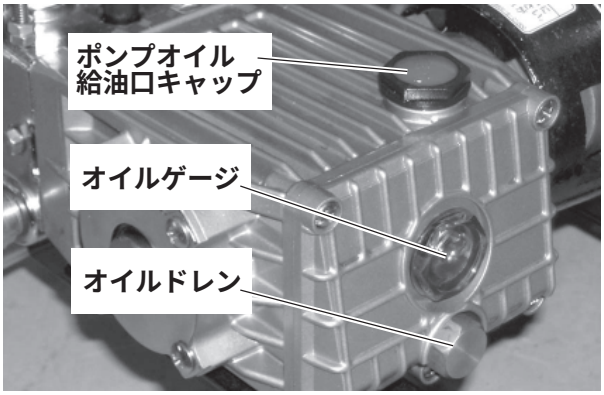
# 点検・整備

## 重　要

- この表の期間に従って整備・点検を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は、整備・点検の回数を増やしてください。
- エンジンの点検・整備につきましては、付属のエンジンの取扱説明書に従って行なってください。
- 毎月、毎年の整備・点検を行なった日付を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。

- 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行なってください。
- タバコ、その他の火気は厳禁です。

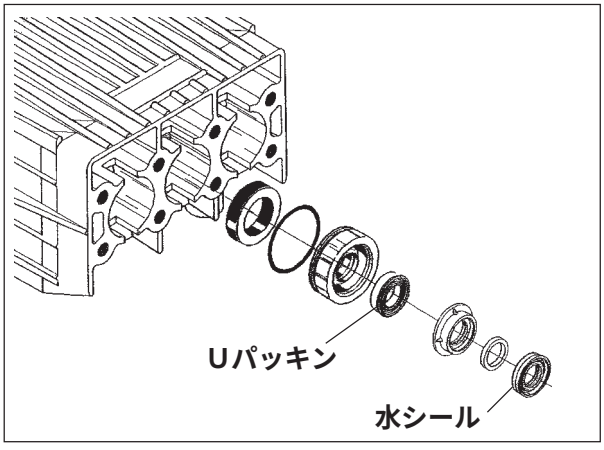
| 部 品 名 | 整備内容 | 整 備 時 期 |
|---|---|---|
| ポンプクランクケース | オイル交換 | 初回は５０時間使用後、以降１００時間ごと |
| Uパッキン | 点検・交換 | 使用時期前 |
| 継手パッキン | 点検・交換 | 毎年 |
| 吸水ストレーナ | 清掃 | 毎回使用後 |




## ポンプクランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

ポンプクランクケースのオイルはＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。

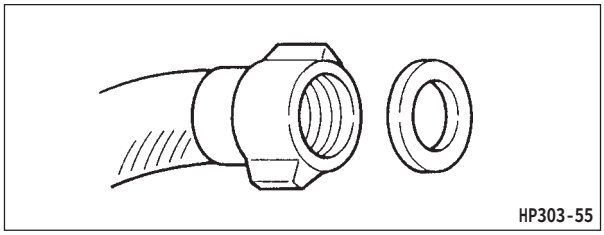



## Uパッキン

長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはUパッキンが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、Uパッキンを交換してください。

### 重　要

Uパッキンを交換した際は、組付ける順序と組付け方向を間違えないようにしてください。（左図参照）




## 継手パッキン

（毎年、使用する前に点検してください。）
点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

# 長期保管

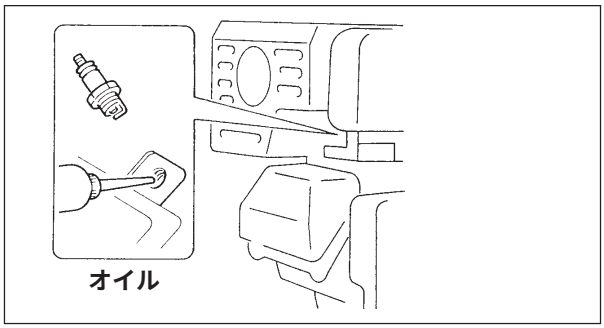
**重　要**

- 冬期間、水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。
- 機械保護のため、水抜きのカラ運転は１分間程度以内にしてください。

長期保管する前には必ず以下の手順に従ってください。

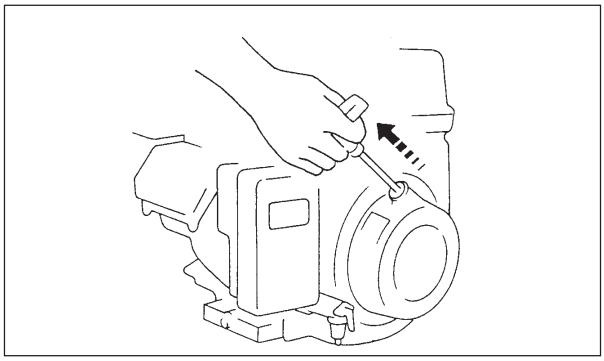
## 水抜き

１．エンジンを始動させ、スロットルレバーを「低速」の位置にします。
２．エア抜きコックを開き、吸水ホースおよび吸水ストレーナは水から引上げた状態でトリガランスのトリガを握り、各ホース内の水を排出します。
３．各ホース内の水が排出されたら、すぐにエンジンを停止してください。




## エンジン

- エンジンを３０日以上使用しない場合は、燃料コックより燃料を抜いてください。また、エンジン内部に残っている燃料は、低速で運転して使いきってください。
- スパークプラグを外してシリンダ内にエンジンオイルを小量（約１０㎖）注入してください。
- 数回クランク軸を回転させてからピストンを上死点まで動かしてください。その後スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは外しておいてください。）



## 保管場所

機械は以下のような場所に保管してください。
- 直射日光、熱、火気にさらされない。
- 湿気、ホコリが少ない。
- 安定している。

# 故障対策

● 使用中に不具合が起きたときには次の表に従って調査の上対策を施してください。

● ご不明の点については、お買い求めの販売店へご相談ください。

| 不具合事項 | 原　因 | 対　策 |
|---|---|---|
| ● エンジンが始動しない。 | ● エンジンが冷えている。<br>● エンジントラブル。<br>● 凍結によるポンプの固着。 | ● チョークを“閉”にする。<br>● 販売店へ。（分解・整備）<br>● 温度を上げ解凍する。（販売店へ） |
| ● 運転音が大きい。 | ● 水温が高い。<br>● 空気の混入。<br>● 吸水不足。 | ● 供給水温を下げる。<br>● エア抜きコックでエア抜きをする。<br>● 供給水道量の見直し。<br>● 吸水ストレーナの清掃。 |
| ● エンジンが停止する。 | ● エンジンのオーバーロード。（オーバーヒート）<br>● 圧力の上がりすぎ。 | ● 温度が下がるまで待つ。<br>● 圧力調整ネジを回して圧力を下げる。 |
| ● 吸水しない。<br>吐出しない。 | ● ポンプ、配管内のエアロック。<br>● ノズルの詰まり。<br>● ポンプの不具合。 | ● エア抜きコックを“開”にする。<br>● 清掃する。<br>● 販売店へ。（分解・整備） |
| ● 規定圧力に上がらない。 | ● ノズルの摩耗。<br>● ポンプ、圧力調整機構の不具合。 | ● 交換する。<br>● 販売店へ。（分解・整備） |
| ● 噴射水が一定しない。<br>ホースのふれが大きい。 | ● ノズルの詰まり。<br>● 空気の混入。<br>● 吸水不足。<br>● 圧力調整機構の不具合。<br>● ポンプの不具合。 | ● 清掃する。<br>● エア抜きコックでエア抜きをする。<br>● 吸水系統の接続部の点検。<br>● 供給水道量の見直し。<br>● 吸水ストレーナの清掃。<br>● 販売店へ。（分解・整備）<br>● 販売店へ。（分解・整備） |

# 仕　様

| 項　目 | | | 単 位 | WE１００９ | WE１５１２ |
|---|---|---|---|---|---|
| 長さ×幅×高さ<br>（ランス、ホースを除く） | | | mm | ７１５×５２０×８４５ | |
| ※ 質　量 | | | kg | ３１ | ３５ |
| ポンプ | 型　式 | | － | WH２５０９B | WH２５１２B |
| | 回転数 | | rpm | １８００ | |
| | 常用圧力 | | MPa(kgf/cm²) | １０．０（１００） | １４．０（１４０） |
| | 吸水量 | | L/min | ９．０ | １２．０ |
| | プランジャ | 数 | － | ３ | |
| | | ｽﾄﾛｰｸ×直径 | mm | １０×φ１５ | １３×φ１５ |
| | 調 圧 弁 | | － | ステンレス円錐弁式 | |
| | 潤滑油容量 | | L | ０．５ | |
| | 吐出 | ホース | φmm×m | ６×１０ | |
| | | 継手 | 呼び | １/４ 高圧カプラ | |
| | 吸水 | ホース | φmm×m | １８×３ | |
| | | 継手ねじ | ねじの呼び | ＰＦ３／４ | |
| エンジン | 型　式 | | － | 三菱GM１３２LN | 三菱GM１８２LN |
| | 排気量 | | mL | １２６ | １８１ |
| | 最大出力 | | kW(PS)／rpm | ２．９（４．０）/４０００ | ４．４（６．０）/４０００ |

※質量：燃料、オイル、ホース類を除く
この仕様は予告なしに変更することがあります。

# メ　モ

# メ　モ

# メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

**北海道共立エコー株式会社**
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

**東北共立エコー株式会社**
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

**東部共立エコー株式会社**
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

**中部共立エコー株式会社**
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

**西部共立エコー株式会社**
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

**九州共立エコー株式会社**
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

**エコーレンテックス株式会社**
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

**◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。**

X750-008 46 0
X750612-030 0

0506A 0624 ES

© 2005 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。